ドキドキわくわく　あたらしい本

2022.10

えほん

さつまいも（ごろん　ずっしり）

いわさゆうこ　さく
童心社

おいもほりのきせつですね。あきにはずっしりふとるさつまいもですが、つちのなかでどのようにそだってきたとおもいますか。

たいようとはっぱがつくったちからは、つるをとおってねっこにたまり、ずずず、ずずず、ずずんずん、ずっしりごろーんとふとっておおきくなるのです。どんなおいもができたのか、ほりだしてみてみましょう。

ふしぎなひきだし

苅田澄子　作　つがねちかこ　絵
金の星社

おばあちゃんがつかっていたふるいタンスは、ときどきあきません。あるひおにいちゃんがちからいっぱいひきだしをひっぱったら、したへおりるかいだんがでてきて、なっちゃんもおねえちゃんもびっくり。

「おりてみようよ」とみんなでかいだんをおりてみました。するとすこしずつあかるくなってきて、めのまえにはもりがあらわれました。

低学年

おかあちゃんにきんメダル！

いどきえり　さく　おしのともこ　え
国土社

ぼくのいえでは、やさいがよくころがってくる。おかあちゃんのてがふじゆうで、しっかりとおさえることができないからだ。

さんかんびのひ、おかあちゃんがきょうしつにきた。みんながおかあちゃんをじろじろみてる。ほうかご、よしおは「てがぶらぶらしてるのなんで？」「うちゅうじんみたいやな」といってきた。ぼくは、おかあちゃんとでかけるのがいやになった。

そのひ、いっしょにおふろにはいったおとうちゃんがりゆうをおしえてくれた。

せんたくかごのないしょのはなし

こがしわかおり　作
あかね書房

いいおてんきのあるひ。サボンはママのせんたくのおてつだいをしていました。くつしたをさがして、せんたくかごをのぞいていると、とつぜんつむじかぜがふいて、サボンはとばされてしまいました。

きがついたサボンがたどりついたのは、ひろーいへや。そこにはおそろいのふくをきた、ちいさなひとがたくさんいました。そのひとたちは、ここがおせんたくのくに、じぶんたちはせんたくやだというのです。

ドキドキわくわく　新しい本　2022.10

中学年

やまの動物病院

なかがわちひろ　作・絵

徳間書店

山のふもとの小さな町のはずれ、いちばん山に近いところに、小さな「まちの動物病院」があります。まちの動物病院のまちの先生は、町の動物たちのおいしゃさん。大きなとらねこのとらまると一緒にくらしています。小さな町なので、かんじゃさんはたまにしかきません。まちの先生は今日もいつものようにしんさつを終えて、ねむりにつきました。するととらまるは起き上がり…。

先生は知らないでしょうね、まいにち先生がねむってから、とらまるが「やまの動物病院」をひらいていること。

さて、こんやも、やまの動物病院のしんさつがはじまります。

ぼくのちぃぱっぱ

長江優子　作　早川世詩男　絵

ゴブリン書房

土曜日の朝、ぼくがかっていたオカメインコの「チーパ」が、とりかごからにげだしてしまった。家のなかをさがしても、どこにもいない。チーパがあたりまえのようにいつもいる「日常」をうしない、ぼくは「非日常」の世界にはいりこんでしまった。「非日常」から脱出するには、チーパをさがしだすしかない。

ぼくは、チラシを作り、迷い鳥のポスターをマンションのけいじ板や、近所の電柱にはった。

チーパはどこにいるんだろう。ぼくのクラスのみんなもいっしょにさがしてくれることになった。チーパが見つかり、「日常」の世界に戻れるのかな。

高学年以上

5年1組ひみつだよ　短編小学校①

吉野万理子　著　佐藤真紀子　絵

静山社

小学5年生の真砂幸也は友達の大介から不思議な話を耳にします。縁を切りたい人の名前を言うと、縁を切ってくれるトンネルがとなり町にあるというのです。あるきっかけで縁を切りたい人がいる幸也は、思いきってトンネルへ行ってみることにしました。電車とバスを乗り継ぎ、トンネルに到着した幸也は、ためらいながらも足を進めます。真ん中までついたところで名前を口にすると、誰もいないはずのトンネルから女の人の声が聞こえてくるのでした。

ある小学校の5年1組の子どもたちを主人公とした、15 の短編集。

ノレノレかるた

二人でつくる卒塾制作

こまつあやこ　著

毎日新聞出版

小春は小学校六年生。中学受験のため、週三回ノーレイン・ノーレインボー進学教室(略してノレノレ)に通っている。

この塾では毎週ミニテストの成績順に、席替えがおこなわれ、上位3人は長机を 1 人で使うことができるが、小春の隣には、いつも親友の英がいる。

学校で卒業制作の話を聞いた小春は、卒塾するノレノレでも、証しを残そうと、英と二人で秘密のプロジェクトを始める。

それは、小春が絵札を描き、英が読み札を考えるかるた作りだった。